



ウスタリスノ時代ト其學說(其二) : 西班牙經濟史ノ一節

福田, 徳三

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 5(4):497-522

(Issue Date)

1908-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051310>



ウスタリスノ時代ト其學說 (其二)

(西班牙經濟史ノ一節)

法學博士 福田 德三

(五)

カロロ五世ノ傳記トシテ最モ信憑ノ値アリト認メラルハ、サンドヴァール *San-doval* ノ *Historia del Emperador Carlos V.* ノ第二十四卷三百六十九頁ニ載セタリトラ
ンケハ其名高イ Fürsten und Völker von Südeuropa 中ニ左ノ一逸話ヲ引用シテ居ル。此

今ハラント全集第三十五、三十六卷ニ收メラレテ題號ヲ次ノ如ク收メテアル。Die Osmanen und die spanische Monarchie im 16. und 17. Jahrhundert, sämtliche Werke. Bde. 35. 36. Leipzig 1877. 而シテ此記事ハ其書ノ第二百六十四頁ニ載セテアル。

『帝カロロ五世陛下或日トレドノ森ニ獵シテ途ニ迷ヒ、一農夫ニ邂逅シテ様々ノ
浮世話ニ耽リケルトキ、農夫ハ己ノ一生中今マデニ既ニ五代マデ國君ノ更代シ
タルコトヲ談リ出デタレバ、帝ハ其中最モ善キ王ハ誰ニシテ、最モ惡シキ王ハ誰
ナリヤト問ヒ試ミタルニ、問者ノカハル貴人ナリトハ露知ル由モナキ農夫ハ、ド

ン、ブルナンドコソ最良ノ王ナレ、最惡ノ王ハ現時ノ王(即チカロロ五世)コソ其レナレト答ヘタリ。帝ハ其何故ナルヤヲ反問セシニ、農夫ハ現王ハ妻子ヲ捨テ、顧ミズ常ニ外國ニ遠征シテ西班牙ノ國事ヲ等閑ニ附シ、印度ヨリ得ル莫大ノ收入ハ皆私用ニノミ供シテ國用ニ充テザルノミカ、之レニ飽キ足ラズシテ人民ニ過大ノ租稅ヲ課スルガ故ニ最惡ノ王ナリト答ヘタリ』

ランケハ之ニ附說シテ曰ク、此ノ農夫ノ感想ハ事實ニ於テ總テノカスチリア臣民否カロロ帝ノ臣民ノ悉クガ抱キタル感想ニ外ナラズ。彼等ノ皇帝ニ對シテ不滿不平ヲ感ジタル所ハ、カロロノ帝國ノ形勢、彼ガ世界ニ於ケル地位ノ上ヨリ已ムヲ得ズ施設シタル所ニアラザルハナシ。蓋シ彼ノ大帝國ニ屬シタル各國ハ唯自國ノ利益アルヲ知ルノミニシテ帝國全體ノ休戚ヲ思フニ及ハズ、反之カロロ帝ハ其爲ス所常ニ全帝國ノ利害ヲ眼中ニ置キテ特ニ一國ニ偏スルコトナキガ故ニ、其事業ハ人民ノ解スル所トナラズ、從テ其遂行ニ要スル經費ヲ得ルニハ最モ大ナル困難ニ遭遇セリ。是レカロロ帝一代ノ最弱點、其財政ハ一事ニアリシ所以也』ト。

右ノ一節ハ殊更最モ適切ニカロロ帝ガ國王タリシ間ニ於ケル西班牙ノ狀態ヲ

要言スルモノデアツテ、西班牙經濟史ヲ解釋スル眼目ノ點ヲ含ンデ居ルモノデア
ル。蓋シカロロ帝ニ至テ西班牙ノ經濟上ノ狀態ハ大ニ形勢ノ變ヲ現ハシタノデア
ル、而シテ從來ノ史論ハ殆ンド一樣ニ此變遷ヲ以テ西班牙衰亡ノ原因ト認メカロ
ロ帝ヲ以テ他日ニ於ケル西班牙ノ經濟上ノ非運ノ端緒ヲ啓イタ、否其動機ヲ與ヘ
タ發頭人ナリト斷定シテ居ルノデアアル。先ヅ Llorentes カラ始メテ Clemens 竝ニ Gon-
zalez ハイザベラ時代ノ盛況ヲ説クト共ニカロロ帝時代ヲ以テ之ヲ打破シタモノ
ナリトノ論ヲ盛ニ主張シ出シテカラ後ノ歴史家ハ皆其論ニ雷同附和シテ居ル
Ferrer del Rio, Lafuente, Arias y Miranda, Pedregal y Canedo 等名ヲ知ラレテ居ル史論家ハ
皆異口同音デアアル、而シテ此等西班牙史書ヲ取テ直チニ判斷ヲ下ス他國ノ歴史家
ガ一齊ニカロロ時代ノ西班牙ヲ以テ濟經上ノ衰運ノ初期ト看做スニ至ツタハ敢
テ怪ムニ足ラス次第デアアル。何故カロロ五世(西班牙ニテハカルロス第一世ト稱シ
タレドモ一般ニ Charles quint トシテ知ラレテ居ル故カロロ五世ト云ツテ置ク)ハ此
ク不人望デアツタカ、何故ランケノ引用シタ逸話ノ如ク田夫野人ニ至ルマデモ最
惡ノ王ト看做サレタカト云フニ、其最大ノ原因ハ彼ガ西班牙人デナイ外國カラ來

タ王デアルト云フコトニ存スルニ相違ナイ。カロロハ和蘭(今テハ伯耳義)ノカン府ニ生レ純然和蘭風ニ
教育セラレタ人デアアル、彼ガ重用シタ補弼ノ臣モ亦和蘭人
ツタ即チ主トシテ感情上ノ愛憎ノ問題デアアル。必ズシモ彼ノ政治振ノ如何ニ拘ラズ

頭カラ外國人ト云フ點ニ於テ、其政治ノ良否如何ニ關セズ、嫌ハレ忌マル可キ約束

ニアツタ、然ルニ其カロロノ治政ノ趣ガ亦タ全然西班牙人ノ好ニ適セヌ流義ヲ取

ツタカラ、反感ハ進ンデ惡感トナリ、更ニ進ンデ敵視スルニ至ツタノデアアル。サレバ

凡テノ惡事ノ責任ハ皆彼ニ嫁セラル、其中經濟上ノ變遷ガ最モ著シイニ付ケテ

茲ニカロロガ西班牙ノ經濟的衰亡ノ責任者ト斷定セラル、ニ至ツタノデアアル。例

ニ取ルノモ可笑イ話デアアルガ或内閣ガ財政不始末ノ發頭人デ何ンデモ彼ンデ

モ皆其無能ナルガ爲メト思ハレルノト同ジ事デアロウ。事實ニ於テハ財政ノ不始

末ハ『興ヘラレタル前提』デアツテ、本來ノ責任ハ此前提ヲ與ヘタモノニ歸ス可キデ

アルノニ、不思議ナル『ミスチフキカチヨン』ニ依テ其人ハ却テ財政整理ノ救世主ノ

様ニ看ラレテ居ルト云フ事ガ現ニ我々ノ實見スル處デハナイカ。カロロ帝ノ財政

不始末ハラシケノ言ヲ以テ云ヘバ Wozu ihn die Lage der Monarchie, seine Stellung in der

Welt am meisten nötigte.デアアルグラナタ征服ノ時即チ西班牙ノ所謂黃金時代ニ於テ

既ニ重ナル租税ハ皆國債ノ元利償還ノ爲メニ餘裕ナク、經常ノ歲出ハ僅ニ不確實ナル Servicioヲ充當シテ凌イデ居タモノデアル。殊ニイザベラノ死後フルチナンド一人治世ノ時ニハ三年毎ヲ限ツテ Cortesノ承認シタ Servicio extraordinario『非常特別税』デアツタ。此ノ明確不可疑事實ガ全然打忘レラレテ獨リカロロ帝ノ財政困難ノミ盛ニ謠ハルハ抑モ何故デアルカ、單ニ外國生レト云フ事ノミデハ少シク説明シ切レヌ問題デアル。

此解答ハ別儀ハナイ、彼ノ治政ノ趣ガ西班牙人ノ望ニ合ハナカツタカラニ外ナラス。其西班牙人ノ望ニ合ハヌ事柄ノ澤山アル中亦最モ彼ヲシテ其當時ニ不人望ナラシメ、終ニ後ノ歴史家ノ誤解ヲ被ムルニ至ツタ事ハ、彼ノ經濟政策ガイザベラノ如クデナカツタコト是デアル。言ヲ改メテ云ヘバ、カロロ五世ハ西班牙人ノ望通りノメルカンチリストデナカツタコト是デアル。ランケノ如キ大史家ニシテ此點ヲ逸シテ居ルノハ實ニ惜ム可キコトデハアルガ『南歐君民史』ハ彼ノ壯年時代ノ著述デ第四版ハ千八百七十七年ニ出版サレテ居ルガ序文ニ云フ通り後カラ筆ヲ加ヘテモ多クハ第一版ノ所論ヲ活カスコトヲノミ勉メタモノデアルカラ、實際ハ初

版ノ時即チ千八百二十七年頃ノ立場ニ立ツモノナルコトヲ考ヘテ見レバ、蓋シ已ムヲ得ヌ處ト云フ可キデアロウカ、兎ニモ角ニモ、イザベラ女王トフキリツブ二世トガ稀代ノ名主トシテ仰ガル、原因ノ大ナル一ガ此ノ兩者ハ共ニ西班牙人ノ理想ニ合ツタ、メルカンチリスト『デアツタコトニ存スルト、恰モ反對ノ道理ニ依ツテカロロ五世ハ未曾有ノ惡君ト憎マレ嫌ハレタノデアアル。コレガ Häblerノ Die wirtschaftliche Blüte Spaniens im 16. Jahrhundert und ihr Verfall』一篇ノ主眼トスル處デアツテ、予ガ同意ヲ禁ジ能ハヌ處デアアル。

誤解シテハナラヌ『メルカンチリスト』デナイト云フコトハ、何等ノ經濟政策ヲ行ハナカツタト云フコトデハナイ、否カロロ帝ハイザベラニ比肩スルヲ得可キ有力ノ政策ヲ取ツタ。彼ハ『メルカンチリズム』ノ外形ハ却テ之ヲ打破スルヲ勉メタ。否極力其鎖國的傾向ヲ除クニ力ヲ用キタ。乍去他方ニ於テハカロロ帝ハ亦タ『メルカンチリズム』最終ノ大目的タル『國民經濟ノ統一』ヲ進メル爲ニハ尠カラズ貢獻シタ。彼ガ大事業デアツテ而シテ西班牙ヲシテ彼ヲ嫉視セシムルニ最モ力アル事功タル『コム子ロス』鎮壓ノ如キモ、彼ニ在テハ王權ノ確立ハ國民統一ノ根底ナリト信ズル

ヨリ斷行シタモノデアル。ヘブラー曰ク、イザベラヲシテカロロノ時ニ在ラシメタ
ラハ亦タ彼ト同ジク『コムチロス』鎮壓ヲ企テタデアロウト。ソレハソレトシテ兎ニ
角カロロ微カリシナラハイザベラノ創メタ統一的国家ノ確立ハ彼ガ如クニ進行
スルヲ得ナカツタ一事丈ケハ後世カラ見レバ疑ヲ挾ム地ハナイノデアアル。

カロロ帝ハ言フマデモナク單ニ西班牙ノミニ君臨シタ王デハナイ。彼ノ支配ス
ル帝國ハ西國ノ外ニ獨逸、伊太利、ベルグランド、和蘭、伯耳義ヲ含ム竝ニ其亞細亞、亞米
利加ニ於ケル諸領地ヲ包含シテ居タ。サレバ彼ガ西班牙ノミヲ本位トシタ『メルカ
ンチリズム』政策ヲ執ル能ハザルハ初ヨリ分リ切ツタコトデアアル。ト同時ニ彼ハ此
龐大ナル帝國ノ必要ニ應ズル『大帝國的政策』ヲ執ル可キ運命ヲ有シテ居タノデア
ル。即チイザベラトカロロトハ表面ニ現ハレタ所ハ甚ダ異ツテ居ルガ其大眼目ト
スル所ニ至テハ同一軌道ヲ走ルモノト言フ可キデアアル。異ル所ハカロロノ帝國ハ
イザベラノ王國ヨリズツト大キイト云フコトデアアル。イザベラガ西班牙ニ於テ期
シタ所カロロハ之ヲ歐洲ノ大部分ニ渉ル彼ノ帝國ニ於テ實現セント欲シタノデ
アル。故ニイザベラノ經濟政策ヲ以テ小『メルカンチリズム』トスルヲ得ルナラバ、カ

ロロノ經濟政策ハ大『メルカンチリズム』ト稱シテ差支ナイデアロウ。然ルニ當時ノ西班牙人ノ望ンダ所ハ小『メルカンチリズム』ニシテ、大『メルカンチリズム』デナカツタ。カロロガ經濟政策ノ全然西人ノ了解ヲ購ヒ得ナカツタ所以デアル。

カロロ帝ハ和蘭ニ生レ和蘭デ育ツタ。和蘭ハ其國勢ノ上カラ常ニ自主自治ノ精神ノ熾ナル國デアアルノミナラズ、經濟上ニ於テハ鎖國の自足經濟主義ハ初カラ容ル、ノ餘地ノナイ國柄デアアル、其譯ハ云フ迄モナク和蘭ハ地形上常ニ外國トノ交通ヲ以テ立國ノ生命ト倣シテ居ルカラデアアル。此和蘭ニ人ト爲ツタカロロ五世ガ如何ンゾ固陋狹隘ナル鎖國的政策ヲ取ルコトガ出來ヨウ。西班牙人ガ彼ヲ以テ外國人トスル念深ク、西班牙ノ國敵トマデニ嫉視シ、終ニ『コム子ロス』ト眞正面ニ衝突セザルヲ得ザルニ至ラシメタ原因ハ茲ニ求ム可キデアアル。加フルニ彼ノ性自信厚ク、一度定メタル事ハ鐵石ノ意志ヲ以テ貫クガ故ニ、到處ニ敵ヲ作ツタ。獨逸皇帝トシテノカロロハ亦タ甚不人望デアツタ、否和蘭ニ於テサヘ彼ハ畏レラレタガ、服サレテハ居ナカツタ。ランケハ彼ノ面目ヲ叙シテ云フ『大體ニ通ズル意志ハ確乎不動ナレドモ、箇々ノ場合ニ臨ンデハ決斷スルコト極メテ遅々タリ。而モ一度決定スル

ヤ、何物ヲ以テシテモ寸毫モ之ヲ淪ヘシムルコト能ハズ』ト。Die Osmanen u. s. w. S. 92
伊太利ノ史家 Cavollo 曰ク

Lasciera piu tosto ruinare il mondo che fa cosa violentata 『彼ハ強制セラレタル事ヲ爲スヨ
リモ寧ロ世界ヲ滅亡セシム可シ』以上ラマケノト。書ニ引用セリト。帝ニ親近ナル Contarini ハ帝ト左ノ如
キ問答ヲ爲シタリトハランケノ傳フル所也。

帝『朕ハ自說ヲ頑迷ニ固守スル性癖アリ』

コンタリニ『善キ自說ヲ固守スルハ頑迷ニアラズ、堅實ノ性ナリ』

帝『予ハ時トシテ惡キ自說ヲ固守スルコトアリ』

qualche fiata io son fermo in le cattive.

此逸話ハ善クカロロノ眞面目ヲ得タモノデアル。帝ノ施政ニ善政アリ、惡政アリ
而モ其熱心ニ一貫シテ行ハレタ事ニ至テハ一デアル。彼ノ經濟政策ハ彼ノ確信ヨ
リ出デ來ツタモノデアル、大帝國ノ統一ナル大目的ヨリ打算シタ施設デアル。善政
アリ、惡政モ亦アルト云フ點ニ於テハイザベラ、フエルデナンド共ニカロロト相軒輕
スル所ハナイノデアル。サレバ普通ニ西班牙ノ黄金時代ト見倣サレテ居ルイザベ

ラ時代カラカロロ時代へ涉ルトキノ經濟上ノ變遷ハ一言ヲ以テ要約スレバ、小國ヨリ大國ヘノ轉移、小『メルカンチリズム』ヨリ大『メルカンチリズム』ヘノ發展ヲ以テ根本ノ大原因トシテ居ルノデアル。而シテ彼ガ終ニ西班牙ノ國政ニ倦ミ自ラ位ヲ其子フキリッブ二世ニ禪ツテ寺院ニ遷レタノハ此大目的ノ遂行ニ失敗シタカラデアル、其失敗ノ原因ハ財政ノ困難遂ニ自ラ支フル能ハザルニ至ツタ爲デアル。ランケ云フ

Wenn demnach Ruy Gomez de Silba gesagt haben soll, der Grund, weshalb der Kaiser sein Reich niederlege, sei sehr einfach; er wisse es nicht länger zu verwalten, so ist dies zwar eine Uebertreibung, jedoch liegt derselben eine gewisse Wahrheit zu Grunde. Carls Mittel waren erschöpft. Es ist leicht möglich, dass diese Erschöpfung zu seinem Entschlusse beigetragen hat. S. 274.

カロロハ小『メルカンチリズム』ヲ行フニサヘ大困難ヲ感ジタイザペラノ財政ヲ承ケ繼デ之レニ藉リテ大『メルカンチリズム』ヲ行ハント期シタ結果、財政ノ窮乏ハ益々甚敷ヲ加ヘ終ニ此大帝國ノ寶祚ヲ自ラ抛ツニ至ツタ。(一千五百五十六年ノ事也)其子フキリッブ二世代テ立ツタガ獨逸皇帝ノ位ハ繼ガヌ。茲ニ於テ大帝國ハ再ビ小帝國トナルノ端ヲ啓イタ。フキリッブ二世ハイザペラニ亞デ西班牙人ノ愛好

シテ名君トナス所ノ人デアル。コレハ彼が大『メルカンチリズム』ヲ捨テ、再ビ小『メルカンチリズム』ニ立戻ツタカラデアルカロロ帝ガ其死ニ先テフキリツブ二世ニ遺シタト云フ施政ノ訓戒ガ傳ヘラレテアツテ、有名ナ佛國ノ經濟學者フオルボナールハ其『西班牙商業及財政考』(Forbonnais, Mémoires et considérations sur le commerce et les finances d'Espagne. Amsterdam 1761)ナル書ノ二百三十六頁以下ニ此ヲ載セテアル。其大意ニ曰ク『君主ノ意ヲ用ユ可キハ徵收スル租稅少ケレバ少キホド、臣民ノ需要ニ應ズ可キ外國品ノ輸入多キコト是ナリ。蓋シ納稅ノ爲メ取去ラル、所少ケレバ臣民ハ餘剩ヲ生ジ之ヲ外國ニ賣出シテ利益ヲ獲得センコトヲ欲スルハ當然ニシテ其結果民ノ富ハ益々増シ後ニハ君主ニ租稅ヲ納ム可キ實力ヲ増大スルニ至ル』ヲ見ヨ Winninghaus S. 25 Ann. 1 ト。カロロハ自ラ此ク云ヒ乍ラ此金言ヲ實行スル能ハナシ、此訓戒ヲ受ケタフキリツブモ亦之ヲ守ル所カ、却テ租稅ヲ増徴シ、國債ヲ増募シテ彌ガ上ニ財政ノ困難ヲ助長シタ。西班牙衰亡ノ運命ハフキリツブニ至テ始メテ定マツタノデアルヴァキルミングハウス曰ク Die Regierungszeit Philipps II. bildet den Uebergang. Bereits für annals mussten wir eine allzugrosse wirtschaftliche Abhängigkeit Spaniens vom Auslande

constatieren. S. 48 イ・バラー氏ハ云フ Dass die ausschliessliche finanzielle Politik, die Philipp II. etwa seit 1570 befolgte, der eigentliche Krebschaden war, der die Blüte Spaniens auf wirtschaftlichem Gebiete vernichtete, erscheint mir zweifellos. 然ルニフキリツブノ甚ダ人望ノアツタハ何故デアルカト云ヘバ彼ガ純然タル西班牙人デアツタカラデアル。ボン氏ハ云フ Philipp aber fühlte sich als Spanier. Sein Staatsrat ward kastilisch, seine übrigen Länder erschienen ihm nur als Provinzen und wurden von Madrid aus „mit Unkenntnis und Willkür geleitet. Das Herz der Welt sollte Spanien sein, das Herz Spaniens Kastilien. S. 86 『フキリツブハカロロト異ヒ自ラ西班牙人ナリト感ジ居タリ。サレバ其補弼ノ臣モ皆カスチリア人ヲ用キカスチリア以外ノ國ハ單ニ一州ト看做サル、ニ過ギズシテ、王ハマドリツドニ止リ其處ヨリ事情モ究メズ氣儘ニ支配セリ、彼ノ思フ所ハ世界ノ中心ハ西班牙タル可ク、西班牙ノ中心ハカスチリアタル可シトスルニ在リ』ト。即チ彼ハ其父ガ和蘭人ナリトテ憎マレタルト恰モ反對ニ、單ニ西班牙人ニシテ西班牙最負ナリトノ廉ヲ以テ好愛セラレタノデ、極メテ專制的ノ施政ヲ行ヒ甚ダ過重ナル征誅ヲ爲シテモ民ノ怨ヲ招カナカッタ仕合者デアル。乍去公平ナル史家ノ眼ヨリ見テハ。此ク人望ノア

ツタ君主コソ西班牙衰亡ノ大責任者タルコトヲ言ヒ道ハナイノデアル。彼ガ西人ニ好カレタ其事ガ彼ノ罪ヲ構成シテ居ルノデアル。何故カト云ヘバ、彼ハ其父ノ始メタ大『メルカンチリズム』ヲ捨テ、小『メルカンチリズム』西班牙獨天下ノ經濟政策ヲ取ツタカラデアル。大國民ノ經綸ヲ打破シテ小國民ノ退嬰的政策ヲ盛返ヘシタカラデアル。

フキリツブ二世ハ獨リ書齋ニ引キ籠リ單ニ簿書ノ上デ國ヲ治メタヲ以テ有名ナ王デアル。ガスク世ト遠リツ、暮シタ彼ノ治世中ニハ有名ナ宗教調 Inquisitionアリ。Moriscosノ征伐アリ、佛國及土耳其トノ海戰アリ、和蘭ノ離叛アリ、『アルマダ』アリ實ニ國事多端ヲ極メタモノデアル。財政ノ困難益々加ハツタノモ敢テ不思議トハ云ヘヌ。乍去彼ハ其小『メルカンチリズム』ヲ國內ニ勵行スルニモ亦タ銳意シタ工業殊ニ絹工業織物業ノ保護ノ如キ、千五百五十八年ノ穀價公定ノ如キ、小爲小功ハ種々之ヲ試ミテ居ル。然ルニモ拘ラズ Das Land welches er von seinem Vorgänger bei blüh-

endem Handel und lebhafter Industrie erhalten, hinterliess er in einem Zustande zunehmender Verarmung. se nen Nachfolgern, deren Herrschaft das ganze 17. Jahrhundert ausfüllte, und bei deren vollständiger

Unfähigkeit und Schwäche Spanien immer tiefer von seiner einstigen Höhe herabsank. (Wirminghaus. S. 35)ト言ハシムルニ至ツタハ、即チ彼ガ小『メルカンチリズム』ノカロロノ遺業ヲ紹キ之ヲ進ムルニ全ク適セザリシガ爲デハナイカ。實ニ西班牙ノ經濟學者 Campomanes、ハフキリツブ二世ヲ以テ西班牙統一後ノ第一期即チ全盛時代終ルト唱ヘテ居ルフキリツブ二世ガ一代ニ戰爭ノ爲メニ消耗シタ處無慮六億『デユカート』ヲ超ヘ、西班牙ノ人口ハ千萬ヨリ八百萬ニ減ジ、治世中數回破産ヲ宣言シテ猶死スル時一億『デユカート』ノ負債ヲ殘シタ。斯クテ彼ガ第四ノ妻ノ子位ニ立ツ。此ヲフキリツブ三世ト爲ス。時ハ千五百九十八年デアアル。フキリツブ三世ヨリカロロ二世ニ至ル『ハツブスブルク』朝治世ノ凡ソ百年即第十七世紀ノ全部(自千五百九十八年至千七百年)ハ西班牙經濟史ノ第二期ヲ成スモノデアアル。

* * * *

十七世紀ニ於ケル西班牙ノ經濟史ハ今更茲ニ絮說ノ必要ハナイ。第一期ノ全盛時代ニ續ク衰弱時代トサヘ言ヘバ充分デアロウ。茲ニハ唯歷代ヲ竝ベルニ止メヨウ。

フキリツブ三世ノ時ハ葡萄牙モ亦タ西領トナツタガ、ソレハ無論葡國ノ爲ニハ大ナル損デアツタソレハ姑ク措キ最モ重要ナ經濟上ノ出來事ハ貨幣ノ變動殊ニ銅貨ノ濫入是デアル。銅ノ濫入ハ同時ニ其代品トシテノ銀ノ流出ヲ意味シテ居ツタ而シテ又租税ノ増徴ガ行ハレタ。フキリツブ三世ハ前王ニ倣テ絹及奢侈品ノ輸入禁止ヲ命ジタガ事實ニ於テ行ハレナカツタ。千六百二十一年フキリツブ四世位ニ卽ク。宰相ヲリウアレヅノ補弼ヲ得テ此王モ亦種々經濟上ノ施設ヲ試ミタ、其中銅ノ輸入禁止、銀ノ輸出禁止ハ嚴命ヲ以テ勵行シタガ皆徒勞ニ歸シタ。又商品ノ輸入禁止モ屢々命令サレタガ同ジク無效デアツタ。千六百六十五年其子カロロ二世國王トナル。時ニ齡僅ニ四歲位ニ在ルコト三十餘年唯々國運ノ日ニ非ナルヲ見ルノミ。千七百年死シテ子ナシ『ハツプスブルグ』朝此ニ終リ。佛國王路易十四世其孫アンジュー候フキリツブヲ擁シテ西班牙ノ王位ニ登ラシム。フキリツブ五世卽チ是デアル。王ハ凡庸ノ君デ侍從長ヲルシニ公夫人權ヲ專ニスルニ任セ、國運ノ益々衰ヘ行クヲ如何トモスル能ハズ、ウトレクト條約(千七百十三年)ニ於テ和蘭及伊太利ニ對スル凡テノ權利ヲ拋棄スルノ已ムヲ得ザルニ至ツタ。卽チカロロ五世ノ大

帝國ハ勿論何ノ時代ニモ見ルヲ得ザル縮少退嬰ノ時デアル。大『メロカンチリズム』ハ勿論ノ事小『メロカンチリズム』モ亦及ビモ附カヌニ至ツタ小國主義ノ世トナツタ。ジエロニモ、デ、ウスタリスハ實ニ此時ニ出デ來ツタノデアル。

(六)

ウスタリスノ論ジタ問題ハ多岐ニ涉ツテ居ルガ其最モ力ヲ注イデ論ジテ居ル所ハ當時ノ西班牙ノ三大難問題タル(一)財政ノ紊亂(二)人口ノ減少(三)貨幣ノ流出是デアル。彼ハ此三ノ國難ヲ救フガ爲メニハ路易十四世ノ政策ニ倣フ可シト主張スルノデアル。路易十四世ノ政策ハ一般ニ『メロカンチリズム』ノ典型トシテ知ラレテ居ル。故ニ此意味ニ於テハウスタリスハ純然『メロカンチリスト』デアルガ、彼ハ此ヲ名ケテ *nuevap olica* 『新政』ト稱シテ居ル。

(一)財政ノ紊亂 西班牙ハ國民經濟ノ滯滯ヲ爲シタト共ニ又財政紊亂ノ本家本元トシテ誰知ラヌ者モナイ國柄デアツテ(一)惡税ノ流行(二)國債ノ重荷兩乍ラ世界第一位ニ在ル。抑モ『ハツプスブルグ』朝殊ニカロロ帝以後ノ西班牙ノ財政ハ租税請負制度ニ基イテ居ルモノデアル。租税ハ大別スルト左ノ二種ガ存シタ

(一) Rentas generales 一般税

(二) Rentas provinciales 州税

州税ト稱スルハカスチリア國ノ二十二州ノミニ行ハレタノデアラゴニア、カタロニア、ヴァレンチア、ハレアラ等ニ於テハ其地方々々ノ税アリテ之ニ代ツテ居リ、ナヴァラ(ウスタリスノ生國)ニハ此種ノ税ハ全然存セズ。概シテ云ヘバカスチリアノ負擔最も重ク、ナヴァラ最も輕シ、アラゴニアハ之ニ亞デ輕カツタノデアアル。サテ此州税ノ中最モ重要ニシテ、收入最多ナルヲ『アルカヴァラ』alcabala (alcavala トモ綴ル)ト云フ。コレハ後世ニマデモ普ク知ラレテ居ル位有名ナル税目デ、アダム、スミスモ國富論中ニ此税ノ事ヲ論ジテ居ル。今日トテモ租税ノ沿革ヲ談ズルモノハ必ズ昔西班牙ニ『アルカヴァラ』ナル惡税ノ存シテ居タコトハ皆知ツテ居ル。ソレハ此税ノ收入最も多カツタノト、其民間經濟上ニ及ボシタ影響ノ甚ダ深カツタトノ二ニ基因スルノデアアル。此税ノ起源ハ千二百四十一年 Algeciras 府包圍ノ時アルフォンソス十一世ガ同府ニ限ツテ布イタニ始リ後漸クカスチリア全部ニ普及スルニ至ツタノデアアル『アルカヴァラ』ハ意譯シテ『賣買税』トデモ云フ可キデアロウカ、物品ノ賣

買毎ニ何回ニテモ其度々ニ賣手カラ徴收スル歩合税デアアル。其率ハ時ニヨリテ色色高低ハアツタガ、高キ時ハ二割、低キ時殊ニカロロ五世ノ頃ハ Cortes ノ請願ニヨツテ五分デアツタ。然シ乍ラ實際ニ於テハ賣買ノ行ハル、毎ニ徴税スルト云フハ非常ニ煩シイ手數ヲ要スルコトデアツテ、到底嚴密ニ行ハル、モノデナイ。是ニ於テカ一定ノ總額ヲ限ツテ地方々々ニ請負ハシメタ。此請負ヲ名ケテ Encabezamiento ト云ヒ是亦普ク知ラレテ居ル一種ノ制度デアアル。『アルカヴァラ』ニハ附加税ガ種種アツタ。即チ Tercias reales ; quatro unos por cierto ノ如キ其デアアル。此外ニ Millones ト云フ消費税ガアル、酒、肉、油、魚等ニ課シタモノデアアル。

一般税ノ中最重ノ税目ハ是亦後世有名トナツタ Aduanas ト稱スル關税デアアル。關税ト云フモ今日各國ニ行ハル、ノトハ違フ、當時ハ西班牙ノミナラズ何國ニテモ國內ニ幾多ノ税關ガアツタ。故ニ其性質ハ大ニ異ル。此税ハ從價一割五分ヲ定率トシテ「アルカヴァラ」ノ如ク僧侶ハ免除スル等ト云フコトハナク凡テノ階級ノ人ニ對シ一樣ニ課シタモノデアアル。一割五分ノ率ハ輸入モ輸出モ區別ナク、又外國ニ對スルト國內ノ交通ナルトノ差ナク一率ニ徴收シタ此「アドウアナス」ノ一種ニ猶

Almoríazgos ト云フ税ガアル。此ハ南部諸港ニ古ヨリ存シタ港税デ就中當時第一ノ商港 Sevilla ノ Almoríazgos mayor de Sevilla ト稱スル税ハ最モ收入額ノ多キヲ以テ聞ヘテ居タ。又印度貿易ニ課スルモノヲ Almoríazgos de las Indias ト稱ヘテ居タ。陸上交通ニ課スル關稅ニハ Puertos secos ト云フガアル。コレハヴアレncia、アラゴニアナヴァラ等諸國カラカスチリアヘノ輸出入品ニ課シタ從價一割ノ税デアアル。

其他ニ種々ノ servicio ガアル、其中ニ servicio y montazgo ト云フハ一種ノ家畜税デ飼畜ヲ牧場ニ出ストキト入ル、トキト年二回頭數ニ應ジテ課スルモノデアアル。其代リ mesta ノ特權ト稱シ此税ヲ納ムル畜類ハ途上何レノ農地ニ入りテ其糞ヲ食スルモ隨意デアツタ、其爲農民ハ甚シキ損害ヲ蒙ツタト云フ、鹽及煙草ノ Servicio ハ税ト云フヨリモ寧ロ專賣ト云フ可キデアロウ、賣價ハ政府ニ於テ公定シタモノデアアル。酒料モ亦專賣類似ノ制度ヲ以テ國庫ノ收入ニ充テラレテ居タ。

其他小目ヲ舉グレハ際限ノナイコトデアアル。兎ニ角『アルカヴァラ』及其請負ノ『エシカベザミエント』ノ制度丈ケデモ模範的惡税國タル資格ハ充分ニ具ヘテ居ル。更ニ翻テ國債ノ濫募ノ狀態ヲ見レハ西班牙ノ財政紊亂ノ有様ハ一目瞭然デアアル。

ランケハカロロ帝ニ就テ既ニ云テ曰フ様『當時ニ在リテ國債ヲ起スニハ二重ニ困難ナル事情アリ』其ハ國債ハ必ズ擔保附ナルヲ要シタルコト其二ハ利率ノ非常ニ高カリシコト是ナリ。然ルニカロロ帝ハ擔保トシテ提供ス可キモノヲ剩ス甚ダ鮮シ、サレバ新募債ニハ概テ租稅ヲ抵當トシテ提出シ、債主ハ全部償還マデ其抵當物件タル租稅ハ自ラ之レヲ徵收シタリ。是ニハ『エンカベザミエント』ノ制ノ存在セシ爲メ其手續甚容易ナリシ』ト而シテ利率ノ高カリシコトニ付テハカヴアルロハ曰ク『E gran cosa, nelle guerre passate hanno pigliato da X fino a XX et XXX per certo l'anno, nè mai ha voluto l'imperatore mancare alli mercanti della parola sua, di modo che se bene ha seruito qualche incommodo, ha però conservato talmente il credito che per guerra grande che potesse havere li mercanti non manch'eriano ma a lui (Raake, a. a. O. S. 272) ト云ヘリ。既ニ收入ノ源タル租稅ハ人手ニ渡リ而シテ利子ハ此クノ如キ高率ヲ拂フ財政窮乏ガ加速的ニ増進シテ行クハ當然ノ事デアル。

フキリツプ五世ノ時ニ至テ此ノ紊亂シタ財政ノ整理ヲ企テ先ヅ(一)國內ノ稅關ハ概テ之ヲ廢シテ國境稅關ニ擴張シ(二)僧侶ノ免稅特典ヲ撤去シ(殊ニアドウアナ

ス』脱税ヲ嚴ニ取締リ(三)請負制度ノ弊ヲ矯ムル爲メ總請負人ヲ定メ(四)一般税(レン
タス、ジエチラレス)ノ徵收法ヲ改メマドリツトニ中央稅務署ヲ設ケ一般ノ事務ヲ
統一セシメ後又改メテ請負制度ハ全廢シ(Gobernador del Consejo de Haciendaト稱スル
官ニ其徵收ヲ掌ラシメ、請負制ハ州税ノミニ止メ)(五)酒料ノ專賣ヲ全廢スル等ノ事
ヲ行ツタ。是レ皆ウスタリスノ詳論スル所デアル。彼ハ其書五十五章ニ於テ國內税
關廢止ヲ極力主張シ時ノ改革ヲ贊グルト共ニ猶未ダナヴァラ、カンタブリア、アン
ダルミアニ於テ之ヲ斷行セザルヲ不可ナリトシ、其必要ヲ論ジテ居ル。其理由トス
ル所ハ(一)國內ノ交通ヲ自由容易ナラシムルノ必要(二)殊ニアンダルジアニ就テハ
外國トノ競争ニ於テ内國品ノ輸出ヲ(印度ヲ主トシテ)獎勵スルノ必要ヲ擧ゲテ居
ル。僧侶ノ脱税ニ就テハ彼ハ其書五十六章ニ詳論ヲ試ミ請負制度ノ整理ニ就テハ
第五十七章、五十八章ニ論ジテ居ル。五十九章竝八十章ニ於テ一般税ノ整理ニ就テ
娓娓ノ言ヲ費シテ居ル。酒料專賣廢止ハ五十二章乃至五十四章ニ詳細ノ意見ヲ列
テテ居ル。此クノ如ク彼ハ當時ノ大問題タリシ税制整理、財政改革ニ就テ縱横ニ所
懷ヲ洩シテ居ルガ、乍併彼ハ單ニ一個ノ税制整理論者タルニ止ルモノデハナイ。彼

ノ『新政』論ハ更ニ深イ根柢ヲ有シテ居ルノデアル。彼ハ無論先ヅ時事問題ニ就テ言ヲ立テタガ乍去其言ハ一時ノ急ニ應ズル小策小巧論タルヲ以テ終ルモノデナイ。炬ノ如キ炯眼ヲ以テ時難ノ真相ヲ穿ツニ勉メタノデアル。彼ハ又

(三)人口減少 ノ現象ニ就テモ憂國ノ論ヲ爲シテ居ルガ人口減少ヲ以テ西班牙衰亡ノ原因ナリトスル時論ニ反對シ西班牙ノ衰運ハ原因ニシテ人口減少ハ結果ナリト熱心ニ主張シテ居ル。而シテ時難ノ基タル西班牙衰運ノ大原因トシテウスタリスノ認メタモノハ何デアルカ。答(三)ノ貨幣流出ノ事實是デアル。

(三)貨幣ノ流出 ウスタリスガ『メルカンチリズム』ト稱セラレ、其所謂 *nueva política* ヲ以テ適當ナル意味ニ於テ『メルカンチリズム』ナリト斷定シ得ルハ、彼ガ『メルカンチリズム』タル路易十四世ヲ崇拜シタカラデハナイ。彼ガイザベラヲ理想君主ト稱ヘタカラデモナイ。是等ハ彼ガ『メルカンチリズム』タルノ結果デアル。彼ヲシテ『メルカンチリズム』タラシメタ原因デハナイ。彼ハ『國民經濟ノ統一』ノ急務ヲ認メナイモノデハナイ、其國內關稅ノ廢止ヲ盛ニ主張シアンドルジアノ之ニ洩レタノヲ慨クヲ見テモ知レル事デアル。乍去彼ハカロ帝ノ大『メルカンチリズム』ヲ以テ其新政

ノ骨子トシタモノデハナイ。彼ノ新政ハ實ニ新政[○]デハナイ、舊政[○]デアル。彼ガ『メルカンチリスト』タルハイザベラガ『メルカンチリスト』タルヨリモ猶ホ勝レリト云ハザルヲ得タ所以デアル。而シテ西班牙ニ於テ『メルカンチリズム』ガ學說トシテ一ノ系統ヲ成シ之ガ外國ニマデ傳ハツタノハウスタリスヲ以テ先ヅ々々第一位ニ推サナケレバナラヌ。獨逸、英國、和蘭ニ於ケル『メルカンチリズム』ト佛國、伊國、及ビ此西班牙ノ拉丁民族國ニ於ケル『メルカンチリズム』トハ如何シテモ餘程趣ノ同ジカラザルモノアルコト、ウスタリスニ於テ殊ニ最モ著シイノデアル。

ウスタリスハ極端マデ貨幣ノ流出ヲ以テ國害トナシ、其國內ニ存スルヲ以テ國家富強ノ不可缺條件トナシテ居ル。彼ハ其新政ノ最大要務ハ貿易ヲ我ニ利ナラシムルニアリト倣シテ居ル。其意ハ普通『メルカンチリズム』ノ謬說トシテ今迄英佛ノ經濟學書ニ論ジテアル通デアル。彼曰ク貿易ニ二種アリ Comercio útil(利アル貿易)ト Comercio dañoso(損スル貿易)是也賣ル所買フ所ヨリ多キハ利アル貿易ナリ、之ニ反スルモノハ損スル貿易ナリ、西班牙ノ貿易ノ現狀ハ後者ニ屬ス。新政ノ要ハ之ヲ變ジテ前者トナスニアリ。行ハルレハ即チ西班牙國歩艱難ノ大原因撤去セラルト。即

チ普通ノ貿易均衡說ニ外ナラヌノデアアル。

* * * * *

プユヘルハ說テ曰ク、貨幣ノ多寡ヲ論ズルヲ以テ『メルカンチリズム』トスルハ謬
レリ、此クノ如キハ國民經濟成立ノ一件隨現象ノミト、予ハ此說ヲ祖述スル既ニ久
シイモノデアアル。然ルニ近來ウスタリスノ所說ニ逢着シテ聊カ疑ヲ起ササルヲ得
ナカツタ。元ヨリ純理ノ上カラ云ヘバウスタリスノ議論ハ甚ダ淺薄ナルモノデア
ル。乍併實際ノ上ニ就テ考ヘテ見ルニ、事實ハウスタリスノ所論ハ十八世紀初頭ニ
於ケル西班牙人ノ立場トシテハ此以外ニ出ヅルコト能ハザルヲ示シテ居ル。西斑
牙ニハ富モナカツタ。乍併貨幣モ亦タ無カツタ。富ヲ先ヅ作ルカ、貨幣ヲ先ヅ集ム可
キカ、貨幣ノ飛去ルハ一片ノ銀塊ノ飛去ルノミニ止マラズ、其レ丈ケノ富、其レ丈ケ
ト云フ意味ハ茲デハ甚ダ要領ヲ得ヌガノ飛去ルニ等シキノミナラズ、更ニ多クハ
富ノ消散ヲ意味シ、一ノ惡鬼去リテ四十九ノヨリ惡キ惡鬼ノ返リ來ルコトハナツ
タハデアアル。ウスタリスノ貨幣論ハ確ニ當時ノ急所ヲ捉ヘ得タモノトシカ思ハレ
ヌ。然ラバ新大陸ヨリ巨額ノ銀ノ輸入アリ當時世界第一ノ銀國タリシ此西班牙ニ

於テ此ク貨幣ノ缺乏ヲ告ゲタハ何故デ、何故ニ亦タ貨幣ノ缺乏ガ其經濟上ノ衰弱ニ爾ク重大ナ關係ヲ有シテ居タカ。是實ニ西班牙經濟史否世界經濟史上ノ大問題デアル。予ガ此問題ニ興味ヲ覺ユルニ至ツタハ單ニ昔ノ事ノ爲メニ昔ノ事ヲ知ラント欲スルカラデハナイ。我日本ハ現ニ今貨幣ノ流出ニ就テ尠カラズ時人ノ頭腦ヲ惱マシテ居ルデハナイカ。ウスタリスノ議論ニ接シテ圖ラズモ強キ聯想ノ起ルヲ免レナカッタノデアル。

今此問題ヲ解答スルニハ更ニ西班牙ニ於ケル貨幣ノ沿革ヲ尋チバナラス。ソハ此論文ノ範圍トスル所デナイ。他日稿ヲ改メテ教ヲ乞フニ讓ラチバナラス。此論文ノ趣意ハウスタリスノ論ハ從來謬論ト看做サレタ所ト大差ナキコト、而シテ此ハ一概ニ謬論ト排斥シ能ハザル所以、西班牙ノ特殊ナル經濟上ノ事情ニ基クモノデウスタリスノ學說ト其時代ニ照シ考ヘテ始メテ諒解ス可キモノナルコトヲ明ニシ『メルカンチリズム』ノ真相ハ未ダ必ズシモ今日ノ學問ノ立場ニ於テ皆極メ盡サレテ居ラズ。猶研究ノ餘地ノアルコトヲ述ブルニ過ギナイノデアル。我邦ニ於テ『メルカンチリズム』ノ謬論ガ遠慮ナク行ハレテ居ルニハ是同ジキ事情ガアルモ

第五卷

(五二二)

論說

ウスタリスノ時代ト其學說

第四號

(六二)

ノカ、ソレトモ事情ハ異ツテモ何カ兩者ニ共通ナル點ガアル爲メカ、其邊ノ考察ハ
讀者ノ判斷ヲ待ツコト、シテ、予ハ茲ニハ別ハ意見ヲ立テント欲スルモノデハナ
イ。(完結)